

奈良女子大学大学院人間文化研究科
生活文化学専攻主催学術講演会

江戸のきものと文様

—装いにまつわる3つの不思議—

丸山伸彦氏 (武蔵大学人文学部教授)

日時：2012年11月22日 (木)

14：40～16：10

会場：奈良女子大学E261教室

日本のきもの、それは現代のわれわれにとってもそれほど珍しい存在ではない。

しかし、その歴史、とくに江戸時代の展開に着目してみると、きもの（服飾史上の名称は小袖）がきわめて特異な衣服形式であることに気づかされる。

今回は、そのなかでも特徴的な「3つの不思議」を取り上げ、日本のきものとその文様の意義を問い直す。

<講師略歴>

東京大学大学院人文科学研究科美術史学専修課程修士修了。国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授、金沢美術工芸大学美術科助教授を経て、現在武蔵大学人文学部教授。服飾史・染織史が研究テーマ。『日本の美術340武家の服飾』（1994年至文堂）『江戸モード大図鑑—小袖文様にみる美の系譜』（1999年国立歴史民俗博物館企画展示カタログ）『すぐわかる染め・織りの見分け方』（監修2002年東京美術）など、著書・論文多数。

